

## 編集後記

編集責任者・副会長  
藤木 清次

---

本号は2019年11月9日（土）開催された、第12回経営士学フォーラムにて発表した2本と「研究ノート」1本を掲載いたしました。

磯部正美先生より発表時の草案に加筆・修正を加えられた原稿をいただきました。心より御礼申し上げます。小生の「研究ノート」は前号に掲載を予定していたものです。長くなりましたが、最後までお読みいただけましたら幸いです。

経営士学は、故平井泰太郎博士が提唱されたもので、本年で68年を迎えました。経営士学の前提「経営士」について、平井博士は「アメリカに於けるマネージメント・コンサルタント（Management Consultant）と同じ趣旨を持つものであって、経営に関する顧問・診断或いは指導を行うことを業とする者である。」（『国民経済雑誌』昭和27年1月号）と定義されましたが、小生は「経営士学」研究において、経営とマネジメント（管理）の違いを明らかにしました。

経営士の定義は変わらなければなりません。しかし、変わるのは経営士の定義だけではありません。私自身も、世の中も、変わりつづけているのが、真理です。知識は進歩しますが、真理は太古時代から1ミリも変わりません。真理を受け入れ、大きな変化も、小さな変化も、吉凶・禍福も、苦楽・憂歎も、幸せを予期し、変わる過程（循化相含）を楽しみましょう。

小生の「研究ノート」は本号にて修了いたします。「研究ノート」では、先人の研究に耳を傾けることを第一に心がけました。これからさらに書き直して、書籍として発刊したいと思っております。つきましては、皆様から忌憚のない、ご意見、ご批評をいただきたいと存じます（eメール：keieif@gaea.ocn.ne.jp）。何とぞ、よろしくお願い申し上げます。

末文になりましたが、皆様のご健康をお祈り申し上げます。